

KITA

ニュース

NO.53号
July 2020

目次

- 2頁 理事長あいさつ
- 3頁 2019年度事業報告・2020年度事業計画
- 4頁 2019年度JICA受入れ研修コース実績
- 5頁 2019年度下期実施の研修コース
- 7頁 海外活動状況
- 9頁 KME活動報告
- 10頁 国際親善、人事異動
- 11頁 定年退職者の紹介
- 12頁 KITA19年の思い出



ごみ分別処理シート作成ワークショップ



最終フォーラム参加者

～フィリピン共和国ダバオ市における廃棄物管理向上支援プロジェクト～

フィリピン・ダバオ市において都市廃棄物の減量を目的としたJICA草の根プロジェクトが2017年に開始され、本年3月で終了しました。プロジェクトは廃棄物焼却発電施設導入事業に合わせて計画されたもので、テーマは廃棄物管理組織の強化支援、ごみ減量・分別推進並びにごみ分析技術の移転です。

詳細は本文(8頁)を参照下さい。

理事長挨拶

- 2019年度事業報告・2020年度事業計画に際し -

北九州国際技術協力協会
理事長 古野 英樹

2019年度は米中貿易摩擦、英国のEU離脱問題、北朝鮮核問題、イラン経済制裁問題等大きなリスクを抱えた年としてスタートしました。しかしながら年末からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、前述の局地的なリスクを凌ぐ全世界的な脅威となり、社会、経済面で甚大な影響が出ています。その為、海外関連事業が主体のKITAは事業の実施が困難な厳しい状況となり、過去にない大きな危機に直面しています。

このような環境の中、KITAの2019年度評価損益調整前の経常増減額は約670万円の黒字決算となり、3年連続の赤字は幸い回避できました。これは種々のコスト削減の効果とともに、数年前から取り組んでいたフィリピンやカンボジアの廃棄物案件等の大型契約により、技術協力事業収入が前年度より4200万円増え、約6900万円となった事が主な理由です。一方、研修事業は、新型コロナウイルスの影響もあり約1400万円の減の1億500万円の収入となりましたが、研修事業がKITAの収支に大きく貢献している状況は変わっていません。

続いて、2019年度のKITA主事業の推進課題と達成状況について説明いたします。

< 研修事業 >

- 1 研修の更なる充実
- 2 新たな研修コース受注に向けた仕組みの構築

研修の更なる充実に関しては、コースリーダー、受入企業、講師の皆様のご協力により研修の多様化が進んでいます。また研修フォローアップの事業化を実現すべくアルゼンチンのKAIZENに関するJICA草の根事業に応募いたしました。

< 技術協力部 >

- 1 国際協力・技術協力の推進
- 2 市内企業の海外ビジネス展開に対する積極支援
- 3 北九州メンテナンス技術研究会活動の活性化・事業拡大

東南アジアでの北九州中小企業に対するコンサルティング事業が正式契約となり動き始めました。またJICA草の根事業では、アジア低炭素化センターとの連携

によるカンボジア廃棄物案件に事業実施団体として取り組みました。このような積極的な活動により、技術協力事業の収入は過去最大となりました。

さて、2020年度ですが、研修事業では研修コース数を前年度実績より2コース増の32コースと計画しています。技術協力事業は大型案件の実施がピークを過ぎ、前年度実績より1800万円の減の計画であり、KITAの収支は残念ながら約86万円の赤字予算となりました。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響によりKITA収支は甚大な影響が出始めており、更に赤字額が増える見込みです。

KITAの2020年度の事業方針は、2019年度方針をほぼ継続し以下の3本柱としています。

- 1 KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実
- 2 事業運営効率化の一層の推進
- 3 公益財団法人運営の確立・透明性・公正性及び情報公開の徹底

一つ目の柱の研修事業では北九州立地を活かしたコースの提案と実施を継続して行い、昨年度JICAに提案をしたアルゼンチン/ツクマン州のKAIZEN事業の様なフォローアップ事業を本年度も積極的に検討していきます。また技術協力事業ではアジア低炭素化センターと連携してJICA中小企業海外展開事業案件、及びJICA草の根プロジェクト事業を着実に実行していきます。

二つ目の柱はKITAの将来の安定した運営を目指し、管理業務効率化とコスト抑制に更なる力を入れ、取り組んでいきます。

三つ目の柱は公益財団法人として、また北九州市外郭団体として運営の透明性・公正性を強化するとともに、法令順守に努めます。

現状はKITA創設以来の危機に直面しています。この危機を乗り越える為、KITA関係者には色々な面でご協力をいただいています。まずはこの場を借りて感謝申し上げます。

この厳しい状況においても創設以来の基本理念を守り、国際貢献と地域発展を目指して参る所存です。今後とも皆様方のさらなるご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

2019年度 / 2020年度 理事会・評議員会開催

1. 2019年度

(1) 第2回通常理事会

主要議題：2020年度事業計画並びに収支予算書等の承認

日 時：2020年3月12日(木)12:30～14:05

場 所：千草ホテル

(2) 臨時評議員会

主要議題：2020年度事業計画並びに収支予算書等の承認、評議員・理事選任

日 時：2020年3月26日(木)12:30～14:20

場 所：西日本工業倶楽部

主要議題：2019年度事業報告並びに決算報告の承認
令和2年度定時評議員会招集の決定について

日 時：2020年6月3日(水)13:20～14:45

場 所：千草ホテル

(2) 定時評議員会

主要議題：2019年度事業報告並びに決算報告の承認
評議員、監事、理事の選任

日 時：書面決議にて実施

場 所：書面決議にて実施

(3) 第1回臨時理事会

主要議題：業務執行理事の選定について

日 時：書面決議にて実施

場 所：書面決議にて実施

2. 2020年度

(1) 第1回通常理事会

KITA中長期指針

1. KITA財産づくり

2. 「KITAらしさ」と「北九州立地の強み」追求

2019年度事業報告

下記3つの事業方針を推進した。研修事業はアルゼンチンの研修フォローアップの事業化を応募したが、残念ながら不採択となった。技術協力事業はJICA草の根事業の実行、市内企業の海外事業展開のコンサルティング支援等で今期は大幅な収益の増となった。その結果、評価損益調整前の経常増減額は約670万円の黒字となった。

1. KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実

研修ブランド・現地ニーズ把握からアウトカムフォローまでの確実な遂行

技術協力ブランド・市内に蓄積された技術・ノウハウを活かした海外技術協力及び市内企業の海外展開支援

2. 事業運営効率化の一層の推進

組織・業務分担の明確化と組織間連携の強化・管理業務

効率化とコスト抑制

システムインフラの有効活用促進と機能充実

3. 公益財団法人運営の確立・透明性・公正性及び情報公開の徹底

保護情報の厳守と情報公開の徹底

内閣府、北九州市の外部監査対応関連ドキュメント整備

公益財団法人としての日常マナーの確立

2020年度事業計画

研修事業はほぼ2019年並みで計画、技術協力事業は2019年度がピークで2020年度は約1800万円の収益減を見込む。その結果、評価損益調整前の経常増減額は約86万円の赤字予算となった。一方、新型コロナウイルス感染症の影響はJICAの本邦研修の延期、技術協力対象国への渡航制限等で2020年度は現事業計画の大幅な変更もあり得る状況で収支にも大きな影響を与える可能性がある。

1. KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実

研修ブランド・現地ニーズ把握からアウトカムフォローまでの確実な遂行

研修のさらなる充実

新たな研修コース受注に向けた仕組みの構築

技術協力ブランド・市内に蓄積された技術・ノウハウを活かした海外技術協力及び市内企業の海外展開支援

国際協力・技術協力の推進

市内企業の海外ビジネス展開に対する積極支援

北九州メンテナンス技術研究会活動の活性化・事業拡大

2. 事業運営効率化の一層の推進

組織・業務分担の明確化と組織間連携の強化・管理業務効率化とコスト削減

システムインフラの有効活用促進と機能充実

3. 公益財団法人運営の確立・透明性・公正性及び情報公開の徹底

保護情報の厳守と情報公開の徹底

内閣府、北九州市の外部監査対応関連ドキュメント整備

公益財団法人としての日常マナーの確立

風通しの良い環境作りの実現

